

# 香川県理学療法士(協)会 代議員立候補者

定 数 : 4 名

立候補者数 : 4 名



氏名 横倉 益弘

都道府県士会 香川県

年齢 60

勤務先名称 専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ



氏名 高橋 謙一

都道府県士会 香川県

年齢 50

勤務先名称 四国医療専門学校

### 協会・士会役員歴

1992年～2001年 香川県理学療法士会 理事

2006年～2013年 香川県理学療法士会 副会長

2014年～2017年 香川県理学療法士会 会長

2009年～2017年 日本理学療法士協会 代議員

### 協会・士会役員歴

H14年4月～H18年3月 香川県理学療法士会 理事

H18年4月～H24年3月 香川県理学療法士会 理事

H22年11月～ 日本理学療法士協会 代議員

H24年4月～ 香川県理学療法士会 副会長

### 立候補の趣旨

理学療法士の急増による”質の低下”、また2025年問題、2035年問題や災害対策が大きくクローズアップされている中で、理学療法士の待遇や職場環境の変化が著しく劣悪な環境へと悪化している。

このままでは、理学療法の質を担保することが危惧される。理学療法士の職域拡大、生涯教育の充実、職場での環境改善、介護保険分野の充実、介護予防や産業理学療法などの予防分野への参入など多くの問題を抱えている。

これは協会と地方が同じ目的・目標を持ちしっかり議論し、これからの理学療法（協会・士会）を牽引していかなければならない。

また、我々は、近年のグローバル化の社会においてAIやIoTに変わらない職種として知恵を出し合い、イノベーションしていく必要がある。

この変革という大きな波に飲み込まれないように、協会や県士会が縦・横のネットワークを構築し次の50年に向かって先頭に立つため立候補いたします。

### 立候補の趣旨

現在の理学療法士協会会員数は10万人を超え、理学療法士を取り巻く環境をみると就職や待遇が厳しい時代となっています。そのような状況でも、医療、保健、福祉の現場からは理学療法士に求められることは多く、質を高めて対応していく必要があります。協会からは生涯学習制度が平成33年4月新制度実施にむけて変わる、また全研が平成30年から日研にわたるとの情報が流れてきています。私は、代議員として協会の動向を士会に伝えるとともに、士会員の意見を代議員総会で反映するよう努力してきました。引き続き士会と協会との橋渡しができるよう立候補を決意しました。



氏名 田仲 勝一

都道府県士会 香川県

年齢 41

勤務先名称 香川大学医学部附属病院



氏名 藤井 保貴

都道府県士会 香川県

年齢 46

勤務先名称 阪本病院

### 協会・士会役員歴

香川県理学療法士会学術部員  
香川県理学療法士会スポーツ事業部副部長  
日本理学療法士協会代議員

### 協会・士会役員歴

平成26年 香川県理学療法士会 副会長  
平成26年 香川県地域包括ケアシステム推進委員長

### 立候補の趣旨

医療、福祉など社会保障を取り巻く環境は厳しさの一途を辿っているように思われます。理学療法士のおかれた環境も厳しいものと認識しております。しかし、裏を返せば、理学療法士はそれだけ社会に貢献できる可能性も併せ持っていると考えられます。理学療法士の立場を発展させていくには治療効果のエビデンスの構築とともに理学療法レベルの発展並びに均てん化だと考えます。日本の国民はどこにいてもある一定以上の理学療法を受けることができる。理学療法士個々の能力に頼るのではなく、会員全体の底上げが必要だと思っています。代議員として理学療法の発展のために貢献できればと考えています。まだまだ未熟者ですが宜しくお願い申し上げます。

### 立候補の趣旨

私は県士会の副会長として日本理学療法士協会の意向や方向性を理解し、県士会の各世代の理学療法士にそれぞれの役割を理解していただけるように取り組みます。特に若い世代の会員が積極的に活動できるようにしていきたいと考えています。  
また香川県地域包括ケアシステム推進委員長として、PT・OT・STの3士会合同の委員会をまとめつつ、県の行政や多職種とも連携を図り、地域包括ケアシステムの構築に向けて様々な取り組みをしています。特に、地域で活躍できる人材育成や、地域のネットワークづくりに力を入れていきます。